

## 令和3年度第2回伊豆の国市総合計画審議会

日時：令和4年1月13日 14時30分～16時10分

場所：伊豆長岡庁舎3階第1・2会議室

### 《委員の発言》

| 委員名 | 発言の要旨   |
|-----|---|
| 委員A | <ul style="list-style-type: none"><li>・市内の小規模事業者の最大の課題は事業承継。</li><li>・事業承継を効率的に進めるためには、紙から電子へ移行するデジタル化や、アナログ作業や業務を、ITを使って業務効率の向上や販路開拓を目指すIT化がある。</li><li>・計画策定や販路開拓には、デジタル化やIT化を取り入れること、またそれを支援する職員を育成することが必要。</li><li>・総合計画は、5年、10年先のことなので、確実に実現できるかという点も難しい点もあると思うが、それに向かう努力が重要であり、夢の網羅された計画でないと面白くないと思う。</li></ul>   |
| 委員B | <ul style="list-style-type: none"><li>・「交通安全の推進」において、高齢者への啓発強化として、交通事故を減らすために運転免許返納を促進するとあるが、公共交通網が十分でない中、単身の高齢者や高齢者だけの世帯が増えている。</li><li>・身近にコンビニやスーパーがない地域に住んでいる高齢者は、日々の食料や日用品をどのように購入すればよいのかという課題がある。</li><li>・高齢者の運転免許返納の啓発強化と公共交通網を合わせて考えていく必要がある。</li><li>・もっと行政側が地域に入り込み、どうしたら運転免許証がない高齢者の生活を支えていけるのか、市民の意見を聞きながら具体的に進めていく必要がある。</li><li>・公共交通だけに頼るだけでなく、小売業者の方が出向いていくような仕組みなども積極的に進めていってどうか。</li></ul> |
| 委員C | <ul style="list-style-type: none"><li>・観光周遊バスは、土日の観光客以外に平日の利用もあるので、例えば、100円で片道乗り放題にすると、観光客だけでなく市民にも使いやすいバスになるのではないかと。</li><li>・オリンピックを機に、自転車のまちとしてシェアサイクルといった取組がされており、自転車に乗ることは健康づくりにもつながるので、市民にも享受してもらいたい。</li><li>・総合計画の取組に関して、民間の団体同士が具体的に掛け合わせることで実現していくものもたくさんあるのではないかと。</li></ul>   |
| 委員D | <ul style="list-style-type: none"><li>・伊豆の国市も創業に力を入れており、創業者も増えているが、創業支援は創業だけでなく、その後のフォローも重要。</li><li>・創業後3年続けるということが難しいので、創業者の交流の場や創業後のサポートも必要ではないかと。</li><li>・大河ドラマの散策コースが設定されているが、歴史だけでなくいちご狩りや食事処など、いくつもの地域資源と結びつけていくことが重要。</li><li>・シェアサイクルは、長岡だけでなく韮山にもあると、より健康になり、良いのではないかと。</li><li>・大河ドラマ館も、例えば、いちご狩りとセットにするなど、一つに留まらず複数の場所へ行ってもらう仕掛けがあると良いのではないかと。</li></ul>   |

|      |   |
|------|---|
| 委員 E | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちを活性化する取組について提案したことが、条例がないことを理由に終わりになったことがある。</li> <li>・民間の活力や地域の盛り上がりは削がれてしまうので、新しい条例を作る勇気を持ってほしい。</li> <li>・そういったことを誰でも相談できる窓口があると良いと思っている。</li> </ul>   |
| 委員 F | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ニーズが多様化する中、新たな観光として歴史観光や農業体験などが注目されているが、単独では魅力的なものであっても、事業者として行くと、継続的に実施するだけの収益を得ることは難しいことが多い。</li> <li>・従来の観光では小さなニーズとされていた趣味や趣向を反映した旅、集まりなどが SNS の発達により大きなニーズになってきている。</li> <li>・新たな観光ニーズを幅広く集め、外から来る人だけでなく、地域の人と連携し、掘り起こしながら形づくりをしていけたら良い。</li> <li>・伊豆の国市は歴史のあるまちであり、そのまちに住んでいるという誇りを市民にも持っていただくことで、外から来る人たちに対しウエルカムの気持ちがより強く醸成され、今後の新たな観光の創出につながることを期待する。</li> </ul>                 |
| 委員 G | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊豆の国市にはせっかく FM があるので、ラジオを活用し、ストーリー性のあるドラマ、例えば、鎌倉殿の 13 人に合わせたものなど取り入れ、伊豆の国市ではこんな農産物を作っているというようなことを PR したらどうか。</li> <li>・指導を受けて指導者になったイチゴ農家が、移住者であり、今は新しい生産者を育てているというテレビ番組を見た。</li> <li>・移住を考えている方がそういった映像を見たら、伊豆の国市に来て面白いなと思ってもらえるのではないかな。</li> <li>・様々な広報媒体があるので、お金はかかるかもしれないが、機会を捉えて PR をしてほしい。</li> </ul>   |
| 委員 H | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツをすることは健康につながるが、新型コロナの影響により、集団でスポーツをする、集まる機会が制限される時代になっている。</li> <li>・個人的に自分の体力を高めたり、健康的になるためには、健康マイレージとスポーツ振興をタイアップし、もっと自分自身で体力を高めたり、健康寿命を延ばす事業を強化すると良いのではないかな。</li> <li>・市でも、自分自身の健康を伸ばす取組に力を入れてほしい。</li> </ul>  |
| 委員 I | <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期基本計画案では、双方向の対話の仕組みづくりや子育てモバイルの活用、情報の一元化が盛り込まれており、これからの期待したい。</li> <li>・情報発信において、伝えるという面では、広く知らせる広報に加え、ブランディングも重要。</li> <li>・「生み育てやすいまち長泉」というキャッチフレーズでブランディングに成功した長泉町のように、情報発信プラス子育てを応援しているまちだという印象付けをどのようにしていくかということが、非常に大事だと感じる。</li> <li>・長泉町や富士宮市で行っている施策に、お母さん達が記者になり、まちを取材して記事を書くウェブメディアで、市と市民が協働で行う「ママラッチ」という事業がある。</li> <li>・伊豆の国市でもこういった事業を行うと、参画している意識が高まっていくのではないかな。</li> </ul> |

|     |   |
|-----|---|
| 委員J | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊豆の国市が子育てしやすいまちであることは間違いないが、情報発信という点で他市町に遅れを取っている気がしている。</li> <li>・3町が合併して伊豆の国市になってから大分経ったが、いまだに農業の韭山と商業の大仁と観光の長岡に分かれて、なかなか一つになっていないということを感じている。</li> <li>・例えば、「農業を推し進めている伊豆の国市」、「観光を推し進めている伊豆の国市」、「子育てが一番しやすい伊豆の国市」といったキャッチコピーが、伊豆の国市にもほしい。</li> <li>・何か一本立てて、そこに皆様が向かっていくような形が伊豆の国市でできれば良いのではないか。</li> </ul>  |
| 委員K | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊豆保健医療センターでは、一時期、病棟の2階が全て空いているという状況があった。</li> <li>・高齢者にとって、田京駅の近くにある伊豆保健医療センターは便利な位置にあるので、伊豆の国市が中心となって充実を図ってほしい。</li> </ul>   |
| 委員L | <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画では、持続可能な地域社会を伊豆の国市でどうやって作っていくかということが大きなテーマだと思う。</li> <li>・田舎は、不払い労働がとても多く、それを負担に感じる方や、高齢化で参加したくても参加できない方も増えている。</li> <li>・最終的には市民に協力や負担をお願いしなければならない部分があると思うので、伊豆の国市のBS（貸借対照表）・PL（行政コスト計算書）を開示することはできないか。</li> <li>・市でどこまで財政状況を開示できるか、市の財産をお金に換算することは難しいかもしれないが、市民の協力を得るためにも、可能ならば直接市民へ開示してはどうか。</li> </ul>   |
| 委員M | <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画の内容に異論はないので、とはいかに具体案として肉付けしていくかがカギになると思う。</li> </ul>  |
| 委員N | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の構成について、「成果指標」とあるが、この「成果」をとっていただきたい。</li> <li>・表内でも「評価指標と目標値」とあるが、指標はものさしで、いろいろな面を予測するものであり、成果だけ又は評価だけを示すものではない。</li> <li>・「成果指標」ではなく、ものさしという意味で、「指標」でよいのではないか。</li> <li>・PDCAサイクルの考え方について、Cを「評価」という意味で使われていることがあるが、本来はチェックという意味。</li> <li>・よくできたか、できなかったか、ということよりも、よくできたかもしれないがもっと良くするにはどうしたらよいか、よくできた要因は何なのかを点検し、改善につなげることが本来のPDCAサイクルである。</li> <li>・総合計画と分野別計画をリンクさせることは重要だが、問題は、計画が多すぎて、計画策定＝Pが大きくなり、チェック＝Cも細かくなり、行動する＝Dにかける労力が少なくなってしまうことにある。</li> <li>・計画策定に労力をかけすぎず、まずは何か行動に移し、やれることからやっていくことが重要。</li> </ul> |